



令和7年産米 情報

令和7年産米 12月末の検査結果は前年比+30万t、1等比率75.5%

(単位= t)

	検査数量	等級別検査数量				等級別比率				(参考) 作況 指数
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外	
令和7年産	4,060,301	3,065,062	797,167	152,219	45,853	75.5%	19.6%	3.7%	1.1%	102
6年産	3,761,567	2,854,900	730,817	130,249	45,600	75.9%	19.4%	3.5%	1.2%	101
5年産	3,821,407	2,341,704	1,155,923	267,853	55,927	61.3%	30.2%	7.0%	1.5%	101
4年産	3,878,731	3,048,037	697,370	83,850	49,474	78.6%	18.0%	2.2%	1.3%	100
3年産	4,110,347	3,413,957	590,670	59,321	46,398	83.1%	14.4%	1.4%	1.1%	101
2年産	4,217,771	3,378,169	701,658	89,516	48,428	80.1%	16.6%	2.1%	1.1%	99
元年産	4,117,525	3,010,119	921,117	126,469	59,820	73.1%	22.4%	3.1%	1.5%	99
前年差	+ 298,734	+ 210,162	+ 66,350	+ 21,970	+ 253	▲ 0.4	+ 0.2	+ 0.2	▲ 0.1	-
前年比	+ 7.9%	+ 7.4%	+ 9.1%	+ 16.9%	+ 0.6%	-	-	-	-	-

注) 参考の作況指数は7年産から「作況単収指数」となったため、単純比較はできない。

農林水産省は1月30日、農産物検査結果を公表した。
水稲うち玄米の検査数量は406.0万t(前年同期比+29.9万t=+7.9%)
で、2~6年産同期の平均検査数量395.8万tとの比較では+2.6%にあたる水準。

1等比率は前回(11月末時点75.7%)並みの75.5%となった。なお、1+2等の数量は6年産よりも7.7%(27.7万t)多い。

品種別の検査数量を見ると、にじのきらめきが前年同期から倍以上の増加となり、4位までランクアップした(11月末時点は6位)。

品種別検査数量ベスト10



	検査数量 (t)	前年比	1等	
			前年	前年産
1 コシヒカリ	1,035,094	(▲ 0.2%)	69.9%	70.4%
2 あきたこまち	330,844	(+ 8.1%)	88.4%	83.3%
3 ひとめぼれ	315,027	(▲ 0.2%)	93.4%	91.1%
4 にじのきらめき	138,538	(+ 122.1%)	64.5%	67.9%
5 はえぬき	134,469	(+ 10.4%)	91.7%	91.4%
6 ヒノヒカリ	111,516	(+ 7.9%)	17.3%	16.3%
7 つや姫	81,649	(+ 11.7%)	93.3%	92.2%
8 きぬむすめ	54,890	(+ 13.6%)	54.9%	59.9%
9 あさひの夢	48,777	(+ 15.7%)	66.0%	66.7%
10 つきあかり	32,553	(+ 14.5%)	59.9%	79.6%

今週の玄米入荷情報

- 新潟コシヒカリ長岡特裁
- 福島会津コシヒカリHG
- 福島中通りコシヒカリ
- 栃木コシヒカリ
- 長野飯山コシヒカリ
- 秋田あきたこまち
- 岩手ひとめぼれ
- 佐賀夢しずく特裁
- 佐賀さがびより

高温でも影響が少ないお米。「にじのきらめき」

やや大粒で、茎が短くて倒れにくい。コシヒカリより高温・病気に強く15%~30%多収、さらにコシヒカリと同等の食味。
本品種は、これまでの高温登熟耐性品種の多くが備えていなかったイネ縞葉枯病等に抵抗性があり、農薬散布を減らした低コスト栽培が可能。また、北陸および関東以西の幅広い地域で栽培が可能で、広く普及が見込まれます。
平成30年に品種登録出願されてから、栃木県、茨城県などでも普及が広がっています。